

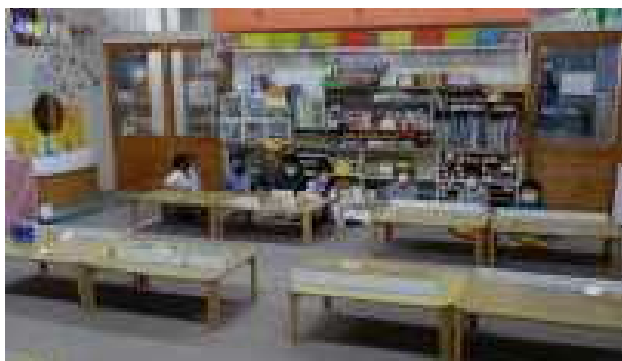
今年度2回目の避難訓練を実施しました！！

10月14日(金)には、今年度2回目の避難訓練を実施しました。今回は、不審者対応の避難訓練で、前橋市防災危機管理課から2名の防災アドバイザーの方にお越しいただいて実施しました。

訓練は、外遊びの時に不審者が幼稚園の敷地内に侵入してきた想定で行いました。



【職員は不審者に対峙】



【児童は、各部屋に速やかに避難】



職員の笛の合図を聞いた児童は、「おはしも」の約束(押さない、走らない、しゃべらない、戻らない)を守って、速やかに各部屋に避難することができました。



【入り口にはバリケードを】



職員は、「さすまた」を使って不審者に対峙しました。その際には、さすまたの有効な使い方も教えていただきました。

- 連絡**
1. 「会員継続願」及び「入会申請書」の**提出締め切りが本日**になっていますので、ご確認をお願いします。
 2. 本日、冬休みの利用申込関係の書類をお渡ししました。「利用予定表」(利用申込書)の**提出期限は、11月25日(金)**になっています。期日までに提出がない場合には、冬休みの利用ができなくなりますので、よろしくお願いいたします。
 3. 夏休み中に子どもたちが取り組んだ、「夏休みこどもミニ作文コンクール」の作品を、来週以降、返却します。お世話になりました。

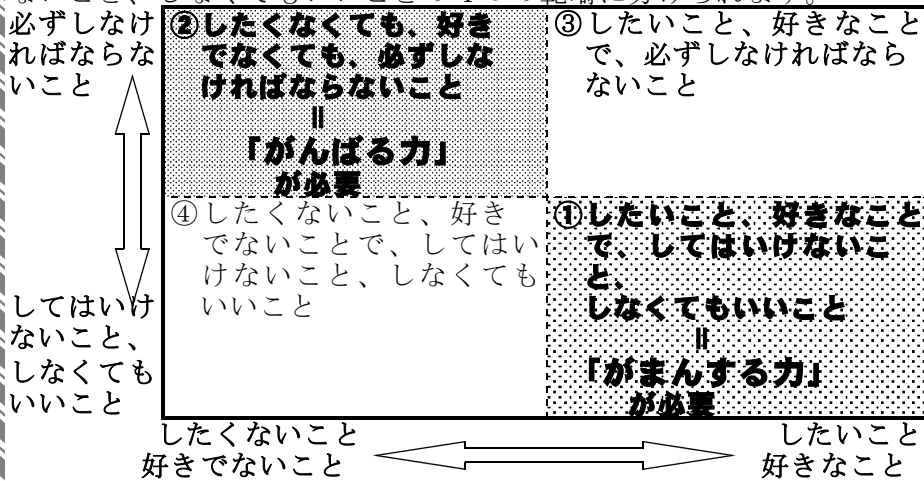
子育てのあれこれ No.18

(文責＝鷲頭)

以前、この「子育てのあれこれ」のNo.10とNo.11で、「がまんする力」をつけることの重要性について紹介させていただきました。そこで今回は、「がんばる力」とも関連させながら、具体的な子育ての方法について紹介させていただきます。それが、以下に示す「がまんする力」と「がんばる力」に着目する子育てです。

「がまんする力」と「がんばる力」に着目する子育て

子どもの行動を「その子がしたいことかしたくないことか」といった2つの視点から考えて、それを横軸にします。一方、その子の教育上の必要度を「しなければならないこと、してはいけないこと」の視点から考え、縦の軸におきます。すると、下の図のように、子どもの行動が、①したいこと、好きなことでも、してはいけないこと、しなくてもいいこと②したくないこと、好きでないことでも、必ずしなければならないこと③したいこと、好きなことで、必ずしなければならないこと④したくないこと、好きではないこと、しなくてもいいこと、しなくてもいいことの4つの範疇に分けられます。



そこで、「したいことや好きなことには、放っておいても子どもは自然に取り組む」といった子どもの特性も踏まえたうえで、子育ての優先順位を決めていくのです。

4つの範疇の中で、まず一番力を入れて子育てをしなければならないのが、①したくても、好きでも、し

てはいけないことの範疇に入る行動への指導です。たとえば、いたずらなどでも命の危険や身体のお安全にかかわる行動、周囲の人に危害を及ぼしたり、迷惑をかけたりの自分勝手な行動、物を壊したり、汚したり、盗んだりなどの反社会的な行動などがこの範疇に入ってくるはず。現在の教育課題で言えば、「いじめ」がその最たるものでしょう。

その次に優先すべき範疇が、②したくなくても、好きでなくても、必ずしなければならないの範疇に入る行動への指導となります。たとえば、周囲の人と協力すること、ルールを守ること、基本的な生活習慣を身につけること、宿題に取り組むこと、などの行動がこの範疇に入ってきます。現在の教育課題で言えば、「不登校」はこちらになると思います。

そしてその次にくるのが、③したいこと、好きなことで、必ずしなければならないこととなり、主に学習や運動などで、得意なことを伸ばすことなどがそれにあたります。

特に大切な「がまんする力」

学童や学校は集団行動により社会性を育てていく場であり、保育園や幼稚園に比べると、大人数でいっしょに行動することが多く求められるようになります。そのため、「人に合わせられる」ことが重要になりますが、そのためには、「がまんする力」が必要です。また、「友だち関係がうまくいくか」でも、「宿題などにしっかりと取り組めるか」でも「がまんする力」がどれだけついているかが大きくものを言います。

「がまんする力」の育て方については、すでに令和2年度の「児童クラブだより」第8号で紹介していますので、ホームページからご覧ください。

子育ての優先順位は

教育心理学や脳科学の理論をもとに、指導しなければならない優先順位を考えると①生命にかかわることや身のお安全にかかわること ②人に迷惑をかけたりの危害をあたえたりしないようにすること ③その子自身のこととなります。一度に多くを求めすぎると、子どもはストレスをため込むことになって、それがいじめや不登校につながったり人格のゆがみになったりするので、優先順位を考えた子育てが必要になります。

(参考文献) 「『心の基地』はおかあさん」「子どもの能力の見つけ方・伸ばし方」「親がすべきこと・してはいけないこと」(平井信義)、「頭のいい子より賢い子を育てるしつけ方」「アドラー博士が教える『失敗に負けない子』に育てる本」(星一郎)、「学校で出来ること出来ないこと」(外山滋比古)、「しかるが育てるもの」(高野清純)、「子どもがのびのび育つ叱り方、ストレスに なるほめ方」(加藤諦三) 他